

2013年(平成25年)2月22日 金曜日 朝刊

役所勤め 残業にのまれる



死んでいた松本美香さん

公務災害

公務員が、仕事が原因でけがをしたり病気になってしまった。民間企業で働く人の労働災害にあたる。地方公務員の場合、各都道府県と政令指定都市に支部がある地方公務員災害補償基金が、公務災害にあたったかを決める。認定されると、治療費等が出る。基金のものになるお金は自治体などが出している。

過労による精神疾患は、仕事内容や勤務時間をもとに総合的に判断する。月務を100時間以上の時間外勤務を行ったかは、認定される可能性がある。

国家公務員の場合は、所属する省庁が人事院と協議して判断する。

卒業。町役場に就職し、公務員に配属された。父勤治さんによると、あとあと「地元で働きたい」という希望があつたといつた。帰宅が遅くなつたのは、町役場に異動して1年半ほど

松木義香さん(当時38歳)が、最大の睡眠薬を飲んで死んだ。戸籍や住民票の手続きを行った。町民生活課(当時)の森口相当だった。

朝、母の久美子さん(58歳)が部屋で倒れているのを見つけた。起きしそうしても反応がない。頭が真っ白となり、娘の背中をさすり続けた。

久美子さんは言つた。「自分たちが生まれ育つた町。その役場に勤めて、こんなことになるわけ。」

追いつめられて

4

どたつた08年1月である。

朝7時20分に出勤。帰宅は夜10時を過ぎた。「疲れやすい。眠れない」と訴えるようになつた。イライラすること増えて、笑顔が消えた。

4月の人事で自分が異動しないとわかつた時は、ひとときわ落ち込んだように見えた。

久美子さんが休むように話しても、「仕事がたまるだけ」と断つた。仕事の中身を聞いても、「公務員は秘書業務がある」と何も話さなかつた。

美香さんは、死亡する2日前、仲のよかつた叔母と電話をかけていた。「もう辞めた

行かない」

1時間に上つた。
1時間に上つた。
1時間に上つた。

間、その前の1カ月で約10時間に上つた。

1時間に上つた。
1時間に上つた。

「リセットボタンないかな」

働く人が過労で悩むのは、民間企業だけではない。地公企業によっては年長者が時間外勤務や仕事のストレスから原因で精神疾患になつたと認められたのは全国で12人。そのうち4人が死んでいる。市役所で働き始めて5ヵ月後

死亡した男性(当時28歳)は、1年間の月給は10万円。月給を30万円にするため、税額控除を申請した。しかし、納税課の仕事に忙い。その後も月給を30万円に取り組むことも納得して和解した。町は三木英朗総務課長は、「責任感が強い人財政課長は、「責任感が強い人には仕事が集まらないようになります」と話す。

意識を低い」と話す。

「リセットボタンを電源スイッチひとつしかないかな」

愛媛県の松山市役所に勤めていた男性(当時28歳)は、1年間の月給は10万円。月給を30万円にするため、税額控除を申請した。しかし、納税課の仕事に忙い。その後も月給を30万円に取り組むことも納得して和解した。町は三木英朗総務課長は、「責任感が強い人財政課長は、「責任感が強い人には仕事が集まらないようになります」と話す。

つじも感謝されるといひなんてますない。だが、市を運営する上では欠かせない。誰かが

しなくちゃならんのです」

市總務部の井出謙敏専門監

は「非常にまじめで、積極的

な新人だつた」と語る。しかし、納税課の仕事に、男性はストレスを感じていた。と頼んだことがあるといふ。

ようだ。民間企業で顧客の苦情対応をしていた父に、「苦

い

間企業で顧客の苦情対応をしていた父に、「苦い」と語る。市役所に就職して10日後、仕事の抱負をつづっていた

(「朝日新聞」2013年2月22日付)